

産学連携ビジネスDAY in 一橋大学

～課題解決討論会～

－入場無料－

2006年10月28日(土曜日)12:30～

会場:一橋大学 国立キャンパス (国立市中2-1)



一橋大学



多摩信用金庫

12:30 オープニングセレモニー

会場:兼松講堂

12:50 基調講演「地域の活性化につながる産学連携を求めて」会場:兼松講堂

キャンパスツアー

基調講演終了後、分科会会場への移動をかねて、学生によるキャンパスツアーを行います。歴史的建造物である附属図書館、西本館、東本館など普段なかなか見ることのできないキャンパス内をこの機会にぜひ体感してください。

14:00 キャンパスツアー

14:30 分科会

会場:マーキュリータワー7階

「事業継承」

戦後60年が経ち、人口減少社会に突入したわが国は、産業社会全体が大きな構造変化の時を迎えている。特に、新規創業が思うように進まず、また、廃業が目立つものになってきた。廃業の多くは事業継承者がいないことによる。そのような時代、社会に活力を与えていくには、これまでの事業をうまく継承させ、新たな時代にあった事業に改変していくことが求められる。事業後継者をどのように作っていくのか、あるいはM&A、MBOなどにより新たな可能性を求めていくなどが問われている。ここでは、具体的なケースの報告を受けながら、新たなあり方を考えていくことにしたい。

コーディネーター

一橋大学大学院商学研究科教授
関 満博 氏



多摩地域の中小企業はハイテク産業、生活関連産業で興味深い発展をしてきました。そして、現在、初代経営者から次の代への移行の時期でもあります。家族・親族にそれを求めていくのか。あるいは、M&Aなどにより、新しい可能性を求めめるのか問われ始めているのです。

コメンテーター

株式会社アルプス技研
創業者 最高顧問 松井 利夫 氏

深中メッキ工業株式会社
専務取締役 深田 稔 氏

パネラー

有限会社アミネックス
工場長 峯尾 一真 氏

石川メリヤス有限会社
監査役 石川 裕美 氏

システムインストゥルメント株式会社
代表取締役社長 菅澤 清孝 氏

株式会社セイワ製作所
代表取締役社長 甲山 喜代志 氏

株式会社ヤシマ
代表取締役社長 武井 哲也 氏

吉野化成株式会社
代表取締役社長 吉野 孝典 氏

他

「ブランディング」

ブランドの本質的な価値は人々の間で共有された記憶である。ブランドのロゴや名前そのものには価値はない。価値があるのは、ブランドの記憶が人々の態度や行動に大きく影響するからである。したがって、経営者としてはブランドとして何が記憶されるかということに最大限の注意を払い、その記憶がいつでも引き出されるような仕組み作りが重要である。資生堂の名誉会長である福原氏は「ブランドは企業文化の結晶」といっているように、ブランドの本質的な価値を考えることは企業経営そのものを考えることに等しい。企業経営者がその志をどのように伝えていっているのかという点を中心に、ブランドの価値について考えていきたい。

コーディネーター

一橋大学大学院商学研究科教授
古川 一郎 氏



志という目に見えないことをどのように伝えていったらいいのか。そんなことは、今更どうでも良いと思っている人がいるかもしれないが、想定外の不祥事などが起きたときの組織の対応に大きな違いが見られるのは、常日頃からこの問題に注意を払っているかないかが大きく影響している。企業は利益を上げさえすればいいのか、そんなことも考えて頂きたい。

コメンテーター

サイバーシルクロード八王子
「ビジネスお助け隊」マーケティング・カフェ主宰 大久保 賢一 氏

パネラー

株式会社industria
代表取締役CEO 高橋 一彰 氏

株式会社ムラウチドットコム
代表取締役社長兼CEO 村内 伸弘 氏

株式会社登喜和食品
代表取締役 遊作 誠 氏

有限会社メダリストプランニング
代表取締役 矢崎 和良 氏

他

18:00 情報交換会〔参加費:3,000円〕(1時間程度)

会場:東キャンパス生協2F

基調講演「地域の活性化につながる産学連携を求めて」

産業社会が「産」と「学」との連携をこれまでも求め、今も新たな連携のあり方を求めているのはなぜか。それは、産業社会が産学連携によって市場経済の活性化と産業の拡大を効果的に実現できるものであるとして評価して来たからに違いない。一般的に言えば、大学が多くの分野で掘り下げてきた「知」の世界の成果を産業が自らの経済活動をより高度化するためのツールとして利用するために、大学がこれまでに蓄積してきた、更には新しく

生み出した「知」を効果的に獲得する関係であると考えられる。これらの関係が一般的にどのように行われ、評価され、変化してきたのか、これからはどのような関係が求められるのか、等が問題となろう。特に地域の活性化につながる産学連携のあり方は、大企業と大学の関係とは異なる地域の企業群全体の活性化につながる必要があることを踏まえた産学連携を考えたい。



一橋大学名誉教授
諏訪東京理科大学学長
片岡 寛氏

「社会貢献」

近年CSR(企業の社会的責任)や「企業市民」意識の高まりの中で、企業の社会貢献活動への取り組み方も変化してきている。これまでのように金銭的な寄付や一般的なボランティアにとどまるのではなく、企業のもつ特有の資源(本業の技術やノウハウなど)を活用し社会的課題に取り組んでいる事例が増えている。また社会的課題に取り組む際、NPOとコラボレーションを組むケースも見られ、多様な活動スタイルを柔軟に構想していくことが大切である。本分科会では、地域の社会的課題の解決にイノベーター型に取り組んでいく社会貢献活動に注目し、その意義と今後の可能性について考えていく。

コーディネーター

一橋大学大学院商学研究科教授
谷本 寛治氏



社会貢献活動をCSRとイコールに理解している人も少なくないが、それは誤解である。CSRの本質は企業活動のあり方そのものを問うているのであり、経営のプロセスに社会的公正性や倫理性、環境や人権などへの配慮を組み込んでいくことである。社会貢献活動や社会的事業は、CSRを広く捉えた場合その一部に位置づけられる。

コメンテーター

NPOイー・エルダー
理事長 鈴木 政孝氏

高崎経済大学地域政策学部
講師 土肥 将敦氏

パネラー

弘久写真工業株式会社
代表取締役 平野 芳久氏

NPO青少年自立援助センター
センター長 滝川 修三氏

東京グリーンシステムズ株式会社
取締役 長谷川 伸治氏

企業組合ワーカーズ・コレクティブ凡
監事 西 貞子氏

他

「中国(海外進出)」

1980年頃に改革・開放に踏み出した中国は、現在では「世界の工場」「世界の市場」と言われるほどになってきた。90年代末の頃までの日本企業の関心は「安くて豊富な労働力」というものであり、原材料を持ち込み、現地で加工・組立を行い、日本に戻すというやり方をしていた。だが、2000年に入る頃から、中国市場の急拡大に直面し、一気に「市場」としての中国に関心を寄せるようになってきている。このような新たな枠組みの中で、地域の中小企業も中国に無関心でいるわけにはいかない。進出する、しないは別にして、中国の動きを深く観察しながら、自らの位置を明確にしていかなければならない。この分科会では、中国の投資環境や進出企業の現状などに注目し、今後のあり方と新たな可能性を考えていきたい。

コーディネーター

上海财经大学国際工商管理學院助教授
範 建亭氏



現在、中国で操業している日系企業は2万社以上といわれ、100万人以上の雇用を生み出し、貿易の拡大や技術移転にも貢献している。日中経済はお互いに競合する面も少なくないが、基本的には補完的関係にある。日本の製造業が従来のような成長力を取り戻すためには、中国企業の生産力、中国産業のパワーをいかに活用することがカギとなろう。

コメンテーター

東軟集団有限公司商用軟件事業部
CKO 細谷 竜一氏

一橋大学 北京事務所
所長 杉森 正和氏

パネラー

株式会社キョーカ
代表取締役 小原 俊彦氏

東フロコーポレーション株式会社
取締役部長 田畑 隆一郎氏

マノ精工株式会社
代表取締役社長 林 愛子氏

他

分科会

事業者の経営の課題、悩みを4つのテーマに分けました。専門教授が課題に取り組む地元企業の経営者とゼミナール形式でディスカッションします。是非この分科会を聴講していただき、貴社の課題解決のヒントを見つけてください。各分科会間の移動は自由です。また分科会ごとに30~50名程度の座席をご用意しております。多数の場合、立ち見となる場合がございます。

情報交換会

分科会参加者(コーディネーター、コメンテーター、パネラー)の方々と交えて、名刺交換と情報交換の場を実現いたします。交流を広げる絶好のチャンスです。是非ご参加いただきビジネスにお役立てください。軽食をご用意しております。【参加費3,000円】

申し込み締切
10月25日(水)

お申し込みはこちらまで

FAX  042-521-2225

参加申込書 <基調講演・キャンパスツアー・分科会>

※複数名ご参加の場合は、本紙をコピーしてお使いください。

下欄に必要事項をご記入の上、事務局までFAXにてお申し込みください。(電子メールでも受付しております)定員がございますのでお早めにお申し込みください。

会社名			
所在地	〒		
TEL		FAX	
E-mail			
お申込者名			
所属		役職	
<アンケート> 特に聴講したいテーマをお選びください		該当する箇所に✓をお付けください <input type="checkbox"/> 事業継承 <input type="checkbox"/> ブランディング <input type="checkbox"/> 社会貢献 <input type="checkbox"/> 中国(海外進出)	
情報交換会 18:00~	該当する箇所を○で囲んでください 参加する・参加しない 会費:3,000円(当日受付にてお支払いください)		

- 定員300名 ■お申し込み後、参加証を返信いたします。当日、受付にご提示ください。受付にてプログラムを差し上げます。
- 途中からでもご入場できます。■当日は駐車場のご用意がございません。お車でのご来場はご遠慮ください。
- 個人情報に関する取り扱い:ご記入いただきましたお客様の情報は、本産学連携事業の運用をはじめ、各種情報のご提供、アンケートのご依頼および事務局からのご案内などの目的に利用させていただきます。



—お問い合わせ先—

たましん法人テレフォンセンター

〒190-0012 東京都立川市曙町2-38-5 立川ビジネスセンタービル6F
 TEL 042-526-7739 電子メールお申し込み⇒sangaku@tamashin.net

受付店舗名

受付番号